

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

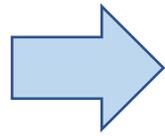
取組テーマ：オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備
地域の課題に対応した障害者に対するスポーツ振興、実施環境の整備

北海道



北海道におけるパラスポーツの現状と本事業採択について

- 令和4年3月 北海道スポーツ推進条例 策定
- 令和4年7月 北海道スポーツみらい会議 発足
- 令和5年3月 第3期北海道スポーツ推進計画 策定

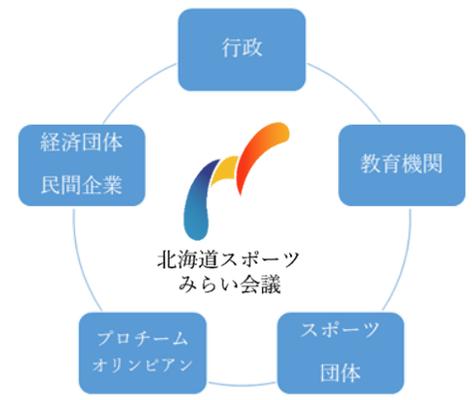


～北海道スポーツみらい会議～

(目的) 行政や教育機関、スポーツ団体、プロスポーツチーム、経済界その他関係者による協働の取組を促進
 (設立) 令和4年7月17日
 (構成) 会長：知事、副会長、橋本参議、道経連など、構成員：270団体

条例及び計画の策定を踏まえ、 本道におけるパラスポーツの一層の普及を図る

北海道スポーツ推進条例
第10条 道は、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツに参加することができるよう、その障がいの種類及び程度に応じたスポーツへの参加の機会を提供するとともに、障がい者のスポーツを推進する人材及び団体等の育成を図るために必要な施策を講ずるものとする。



スポーツ庁の委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業)」の採択

事業趣旨

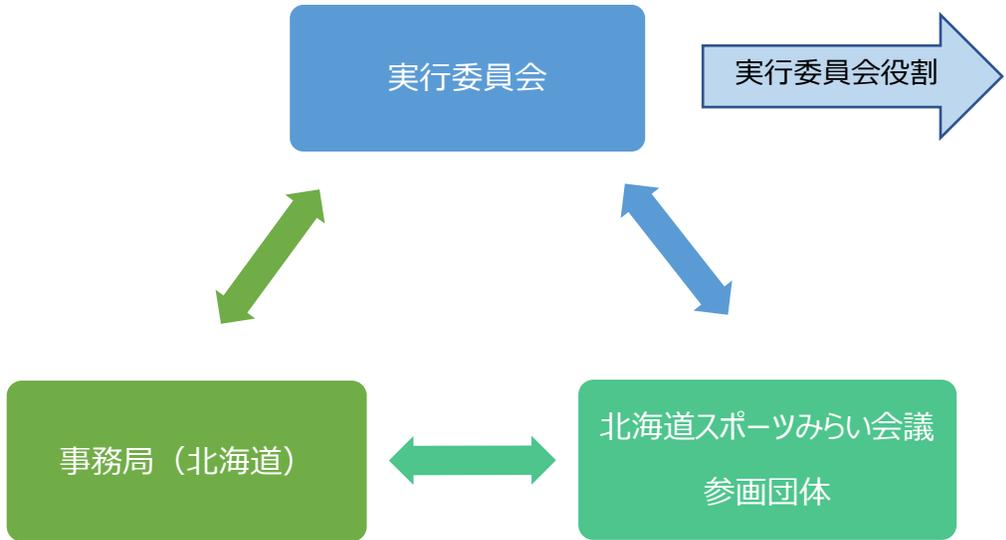
・北海道は、積雪・寒冷、広域分散といった地域特性から、特に家に閉じこもりがちな冬期間に障がいのある方をイベントに連れ出すことが大きな課題となっている。

・そのため各地域で障がい者が身近にスポーツを楽しめる環境は十分に整っておらず、障がい者スポーツを支え、推進する団体や組織が脆弱であることから、地域の障がい者スポーツの関係者と教育関係者や企業、団体などが協働しながら、積雪寒冷の特性を生かし、**「冬の北海道から発信！ 極寒でパラスポーツを楽しもう！！」**をスローガンに掲げ、競技団体の協力を得て考案した「雪中ボッチャ」などが体験できる、屋外スポーツイベントを実施する。

・また、障がい者の理解促進や、障がい者と障がいのない人との交流の推進には、身近な「スポーツを楽しめる場」を創出していくことが必要であるため、本事業の実施により、地域の障がい者スポーツの実施体制を構築するとともに、障がい者スポーツへの理解促進を図り、「支援者」を広げ、身近な場所でスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めることを目指す。

・今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめ、周知することにより最終的には**全道への普及・展開を目指す**。

実施体制とスケジュール



・本事業の実施内容にかかわる関係者を中心に実行委員を組成。
（体験実施種目関係者、出展ブース関係者、会場設営関係者、冬季イベントの移動支援経験者、パラスポーツ関係者、学識経験者）
・冬期間のオープンスペースを活用したスポーツイベントの実施体制や内容等及び実施後に課題及び問題点の洗い出し及びその改善方法を検討する。

- ・主な展開スケジュール
- 【1 1月】 実行委員会の組成
- 【1 2月】 4日 第1回実行委員会開催
25日 周知開始（チラシ及びポスター）
- 【1月】 16日 第2回実行委員会開催
22日 報道発表
- 【2月】 3日、4日 北海道インクルーシブパーク in 道庁赤れんが開催
10日、11日 北海道インクルーシブパーク in 旭川駅前開催
16日 第3回 実行委員会開催（事業報告・まとめ）
- 【3月】 報告書の完成
8日 事業終了

令和5年度障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会
委員専門区分一覧

所属	職名	氏名	専門区分											
			学識経験者	関係団体(障がい者スポーツ)	ポッチャ	車いすカーリング	シットスキー	障がい者スキー全般	障がい者イベント(開催地)	集客・出店(イベント)	報道・音響・イベントMC	写真映像・編集(マニアル作成)		
1	特定非営利活動法人手と手	代表理事	浅野目 祥子								○			
2	北海道障がい者スポーツ指導者協議会	会長	岡崎 勇二		○									
3	特定非営利活動法人さっされん	事務局長	金澤 信治									○		
4	小樽スキー連盟	副会長	金谷 活克						○					
5	北海道医療大学看護福祉学部福祉マネジメント学科	講師	近藤 尚也	○										
6	旭川パラスポーツ協議会	代表	今野 征大								○			
7	一般社団法人 HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS	代表理事	齊藤 雄大					○						
8	株式会社らむれず 三角山放送局	代表	杉澤 洋輝										○	
9	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	常務理事兼事務局長	武田 功		○									
10	学校法人滋慶学園北海道ハイテクノロジー専門学校	広報政策	中山 怜											○
11	北海道車いすカーリング協会	事務局長	本間 篤史				○							
12	一般社団法人日本ポッチャ協会	事務局長	三浦 裕子								○			



シットスキー体験



雪中ボッチャ体験



ピクルストーンカーリング体験



会場出入口



チャレンジドチアダンス披露



福祉事業所等による出店ブース

企業連携とスタンプラリーの実施

イベント実施に伴う事前準備や当日の運営等を、実行委員(委員所属団体)や北海道スポーツみらい会議参画団体等と連携して行った。教育(特別支援学校への周知)、行政機関(上川総合振興局のプレスリリース)における発信、テレビ取材、新聞取材、ラジオ広報、地方情報誌(旭川)での発信、他イベントとの連携(旭川冬まつり)。3つのスポーツ体験によるスタンプラリーも実施。

冬の北海道から発信! 極寒でバラスポーツを楽しもう!

北海道インクルーシブパーク

in 道庁赤れんが

シットスキー

障害者スポーツのうち、座位で行うスキー競技はその用具のこと、主にクロスカントリースキー選手がストックを用いて滑る。

雪中ポッチャ

夏のバドミントン種目のポッチャを冬でも楽しめるよう、防水加工したボールを使って雪上で行う北海道発の新しいスポーツ。

ビクスストーンカーリング

氷上で重物石を使って輪をまがけて放る事も簡単に楽しめる北海道発のインクルーシブスポーツ。

バラスポーツを体験して、景品ゲット! **スタンプラリー!**

参加方法 シットスキー、雪中ポッチャ、ビクスストーンカーリングを体験してスタンプをもらい、3つのスタンプが押された台紙と景品を交換してください。

※スタンプラリーの台紙は1人1冊のりください。景品はなくなり次第終了となります。

スタンプポイント

シットスキー

雪中ポッチャ

ビクスストーンカーリング

※参加にあたっての注意事項

- ① 申し込み段階でご参加ください。
- ② 申し込み後、景品その他必要なものは各自でご用意ください。
- ③ 抽籤当日に十分余裕の上、ご参加ください。
- ④ 抽籤中の抽籤または抽籤については、抽籤者には抽籤結果のみを行います。
- ⑤ 抽籤者には、普通選挙権に加入します。
- ⑥ 抽籤が必要な方は、各自でご参加ください。
- ⑦ 抽籤者または抽籤者連絡先が不明な場合は、抽籤結果を郵送し、抽籤結果等に活用する場合があります。
- ⑧ 抽籤に支障がある場合は、事前にお申し出ください。

お問い合わせ: 北海道環境衛生福祉スポーツ局スポーツ振興課

tel. 011-204-5254 / fax. 011-232-1098
e-mail: keneel.sports@pref.hokkaido.jp



KDDI Wi-Fi無償提供



北海道コンサドーレ札幌と石屋製菓協賛のじゃんけん大会



北海道コカ・コーラボトリング協賛



デフスポーツPRブース



キッチンカー出店

来場者数についての成果と考察

考察

令和5年版障害者白書(2023内閣府)では、「身体障害者(身体障害児を含む。以下同じ。)436万人、知的障害者(知的障害児を含む。以下同じ。)109万4千人、精神障害者614万8千人」と示され、「単純な合計にはならないものの、国民のおよそ9.2%が何らかの障害を有していることになる」と述べられている。一方で、2022年度末の北海道の人口に占める障がい者の割合について、身体障がいは5.5%、知的障がいは1.3%、精神障がいは3.8%と示されている(2024北海道)。

本事業において、集計方法について留意が必要であるが、札幌会場では来場者の約3%、旭川会場では約2%ほどの障がいがある人が確認された。また、インバウンドを除いた場合、札幌では、約5%、旭川では、約2%であった。

十分とは言えないものの一定程度の障がい者の参加があったと考えられる。

【in道庁赤れんが】

区分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ビクルストーンカーリング	計	スタンプラリー	
2月3日(土)	366 (障 51)	136 (障 —)	502 (障 51)	141 (障 2)	159 (障 20)	160 (障 3)	460 (障 25)	136	93
2月4日(日)	664 (障 4)	462 (障 —)	1,126 (障 4)	220 (障 1)	206 (障 4)	273 (障 3)	699 (障 8)	162	111
計	1,030 (障 55)	598 (障 —)	1,628 (障 55)	361 (障 3)	365 (障 24)	433 (障 6)	1,159 (障 33)	298	204

【in旭川】

区分	来場者(人)			パラスポーツ体験(人)					アンケート
	一般	インバウンド	計	シットスキー	雪中ボッチャ	ビクルストーンカーリング	計	スタンプラリー	
2月10日(土)	324 (障 10)	41 (障 —)	365 (障 10)	186 (障 10)	143 (障 10)	120 (障 10)	449 (障 30)	114	80
2月11日(日)	231 (障 3)	32 (障 —)	263 (障 3)	228 (障 3)	165 (障 3)	179 (障 3)	572 (障 9)	156	107
計	555 (障 13)	73 (障 —)	628 (障 13)	414 (障 13)	308 (障 13)	299 (障 13)	1,021 (障 39)	270	187

- ・人数は延べ人数
 - ・インバウンドは、外見や聞こえた言語から判断
 - ・「来場者」の人数は、本部前テント付近を通過し各コーナーに集まった人数をカウント
 - ・「パラスポーツ体験」の人数は、実際に体験した人数
 - ・()内の障がい者数は内数(障がいの有無については目視やコミュニケーションにて判断)
- 注:正確に聞き取りを行ったわけではない点に注意。目視とコミュニケーションを基本としているため、障がい者はさらにいた可能性がある。

○ アンケート結果の考察から、イベントの満足度は高かったものの、改善点がいくつか明らかになりました。

1. 【事前準備の改善】

情報の整理・共有、会場準備にともなう情報共有、各ブースの役割の事前共有など、情報関係に関する改善点が多く挙げられました。これらの点に関しては、今回初めての試みでもあったことから、実施マニュアルの整備や事前準備の集約が必要です。

2. 【備品・物品の事前確認と除雪対応】

事前に備品・物品の確認や除雪対応が求められており、特に積雪時に対応する方法について検討する必要があります。

3. 【体験時の説明と待ち時間の工夫】

体験時の説明は十分であったものの、待ち時間に確認できるような看板等の準備が必要です。

4. 【寒さ対策の改善】

当日の寒さ対策が挙げられており、天候に左右される可能性があるため、最悪の場合を想定した準備が必要です。

5. 【人員配置と休憩頻度】

人員配置に余裕を持たせることや、厳寒期には休憩の頻度を多く設定する必要性が指摘されています。

6. 【体験や会場の案内のわかりやすさ】

体験や会場の案内をよりわかりやすくする工夫が求められます。(英語表記など)

7. 【暖房室の考察】

暖房室の設置が利用者にとって有益であるとされました。

8. 【ステージイベントの活用】

ステージイベントをうまく活用して、体験機会につなげる方法の検討が必要です。

9. 【雪中ポッチャとピクルスストーンカーリング】

雪中ポッチャやピクルスストーンカーリングは参加者にとって興味深い体験であり、雪上でのスポーツ体験の可能性を示唆しています。ただし、リンクを必要とする場合、その準備についても考慮する必要があります。

10. 【シットスキーの実施】

市街地でのスキー体験が提供された点は好評でしたが、降雪時の雪対策や転倒や衝突の安全対策に十分な配慮が必要です。

○ これらの改善点を踏まえて、今後のイベントの計画や実施に役立てることが重要

次年度以降の計画

今年度は、支援者との連携やイベント内容等を検討、実施し、冬期間におけるパラスポーツイベント実施に際してのポイントや留意点を取りまとめました。

今回整理したポイントを踏まえた実施(基本)マニュアルを作成することで、様々な降雪地域でも留意点等を踏まえながら不安を軽減したイベント開催が可能になります。加えて、冬期間開催のハードルを下げていくため、実施ノウハウを蓄積する取り組みを継続し、最終的には全道への普及・展開を目指すとともに自走できる体制を整えていくこととします。

○次年度計画のポイント

- ・イベントの開催地について、札幌のほか、今回実施した旭川以外の地域での開催を検討する。
- ・冬期間の積雪が少ない地域(道東など)における開催種目について検討する。
- ・今年度の取り組みを踏まえ、実施マニュアルの作成を進め、具体化する。
- ・実行委員会の組成についても一定程度の蓄積ができたため、早期からの取り組みが可能であり、準備期間を十分に確保した事業展開を行う。
- ・開催地域に合わせた展開が可能となる開催方法のパッケージ化(ノウハウ蓄積とマニュアル作成)
 - パッケージの一部を取り出した小規模な活動など応用も可能。
- ・多様な機関との具体的な連携の内容事例の整理 → 実施のハードルを下げる取り組み。
- ・参加者の社会資源化促進の在り方 → 体験だけで終わらせず、「支援者」としての活躍につながる仕組みづくり。
- ・イベントとして終わらせるのではなく、取り組みをきっかけとした障がいがある人も冬期間継続的にスポーツに取り組める場づくり。
- ・就労支援事業所等関係者を実行委員会構成員に加え、障がいを持った方の参加を増やす方策を検討する。

イベントを契機に地域定着：オール北海道で障がい者と健常者がともにスポーツに親しむすそ野の拡大

北海道スポーツ推進条例関連条文（関係者相互の連携及び協働）第5条

道は、第2条に定める基本理念の実現を図るため、道民及びスポーツ団体その他の関係者と相互に連携を図りながら協働するよう努めるものとする。